

全国高等学校PTA連合会・小社合同調査
第5回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」結果より

保護者にとっての重要情報は「進学費用」「将来の職業との関連」

収集方法は次第にネット・SNSへ?

社団法人全国高等学校PTA連合会と小社による合同調査「高校生と保護者の進路に関する意識調査」は2011年で第5回となった。オープンキャンパスの保護者同伴が当たり前となった昨今、高校生の進路選択に現代の親はどうかかわり、どう行動しているのか。最新結果から、わが子の進学に関する保護者の意識と情報収集に関する行動を見ていく。

リクルート「キャリアガイダンス」編集長 角田浩子



【調査概要】

- 調査実施者 社団法人全国高等学校PTA連合会／株式会社リクルート
- 調査対象 全国の高校2年生とその保護者
全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高等学校27校
2年生2クラス分の高校生と保護者
- 調査期間 2011年9月20日～10月31日
- 調査方法 学校を通じた質問紙による自記式調査
①高校生：ホームルームにてアンケートに回答
②保護者：高校生から保護者へアンケートを手渡し
③学級担任が高校生と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 有効回答数 高校生1,959人※全問無回答1人を除く
保護者1,417人※全問無回答5人を除く

【回答者プロフィール】

- 高校生
 - 性別：男子49.9% 女子46.5% (無回答3.7%)
 - 所属学科：普通科67.1% 専門学科24.5% 総合学科8.4%
 - 高校卒業後の希望進路：
 - 大学・短大進学55.5%：大学進学50.9%／短大進学4.6% 専門学校進学17.7% 就職21.9% 留学0.6% フリーター0.5% その他1.9% (無回答2.0%)
- 保護者
 - 続柄：父親15.0% 母親81.7% その他0.7% (無回答2.6%)
 - 子どもの性別：男子47.8% 女子49.8% (無回答2.5%)
 - 所属学科：普通科67.4% 専門学科21.3% 総合学科11.3%
 - 子どもの高校卒業後の希望する進路：
 - 大学・短大進学47.9%：大学進学44.3%／短大進学3.6% 専門学校進学12.2% 就職17.7% 留学0.1% その他0.7% 子どもが希望する進路なら何でもよい19.2% (無回答2.2%)

【注】※第3回調査(2007年)は、2007年10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施(有効回答数:高校生1,802人/保護者1,541人)
※第4回調査(2009年)は、2009年9～10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施(有効回答数:高校生1,953人/保護者1,495人)
※報告書内の表記について
- グラフの数値は、小数点第2位以下を四捨五入して表示している - 本文の数値は、グラフ中の数値の小数点第1位を四捨五入して記載している

高校生の進路選択 最大のステイクホルダーは保護者

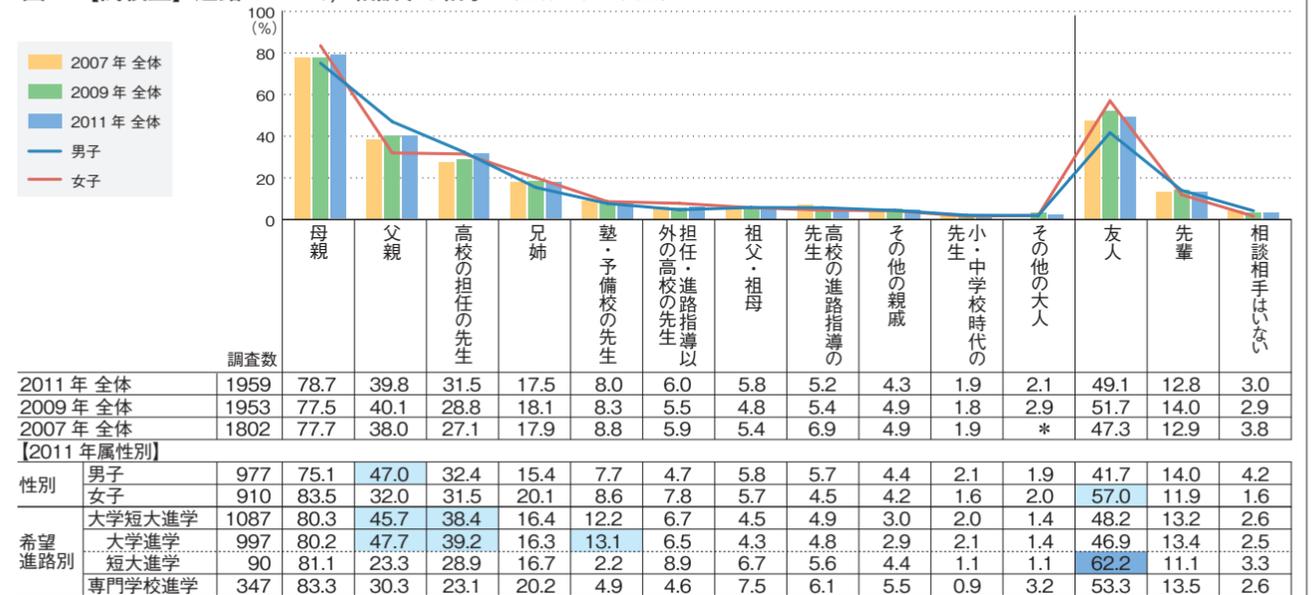
相談相手も、影響を受ける人も1位は「母親」

高校生に進路を考えるうえで相談する人すべてを尋ねたところ(図1)、トップは「母親」で突出。過去調

査と同様、8割近くに達した。次いで友人(49%)、父親(40%)の順となるが、男子は2位に「父親」があがる。

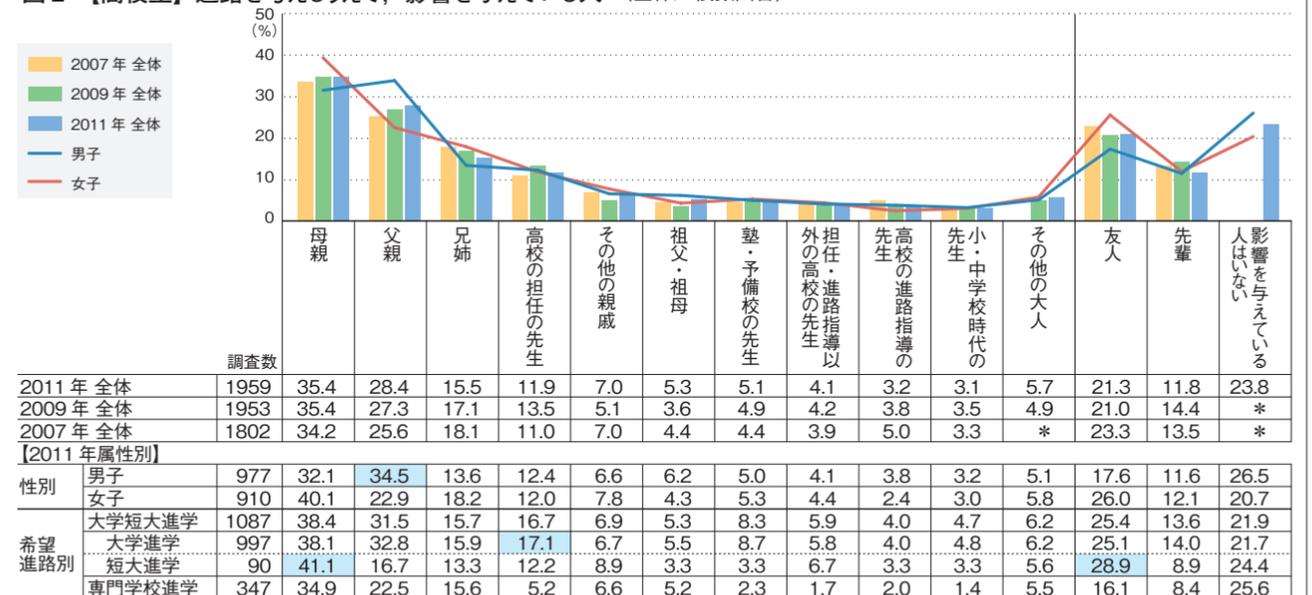
希望進路別にみると、大学短大進学は「父親」「高校の担任の先生」「塾・予備校の先生」のスコアが高く、相

図1 【高校生】進路について、相談する相手 (全体/複数回答)



※カテゴリごと「2011年全体」降順ソート ※「2011年属性別」は、「2011年全体」より5ポイント以上/10ポイント以上高い数値に網掛け ※は当該年度
100.0 「2011年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2011年全体」より5ポイント以上高い

図2 【高校生】進路を考えるうえで、影響を与えている人 (全体/複数回答)



※カテゴリごと「2011年全体」降順ソート ※「2011年属性別」は、「2011年全体」より5ポイント以上/10ポイント以上高い数値に網掛け ※は当該年度
100.0 「2011年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2011年全体」より5ポイント以上高い

談相手幅広い。

さらに、進路を考えるうえで高校生に影響を与えている人すべてを

尋ねた(図2)。相談相手と同様、「母親」がトップなものの、「父親」は2007年以降上昇し続けており、影響

が増している。男子は「父親」、女子は「母親」がそれぞれトップであり、同性の保護者からの影響が強い。

フツーになった「子どもの進路を調べる行動」

高2以降は入試情報調べ・資料請求・学校見学に意欲

子どもの進学を希望する保護者に、子どもの進路選択行動10項目それぞれについて保護者としてどうかかわっているか、今後どうしたいかを尋ねた(図3)。

子どもが高校2年生秋の時点で、すでに行ったことがある行動の上位は以下のとおりで、「アドバイス」が多い。

①子どもに合う分野をアドバイス

する(65%)

②将来の職業をアドバイスする(64%)

③就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする(62%)

そして今後行いたいのは具体的な進路検討のための「調べる」行動だ。

①興味をもった学校の入試方法を調べる(49%)

②興味をもった学校の資料請求を

する(47%)

③興味をもった学校の見学に行く(43%)

また、2009年に比べ、「調べる」保護者が微増しており、具体的な検討のタイミングが早まっていると考えられる。特に「興味をもった学校の見学に行く」は2年生の秋で既に4人に1人の保護者が経験しており、低学年での同伴が進んでいることがわかる。

図3 【保護者】子どもの進路選択行動へのかかわり方(全体/各項目単一回答)

項目	2011年 n=852	2009年 n=924	経験意向・計 (%)				経験意向・計
			行ったことがある	行ったことはないが、今後行いたい	行ったことはなく、今後行うつつもりない	無回答	
子どもに合う分野をアドバイスする	2011年	64.6	19.0	8.8	7.6	83.6	
	2009年	67.1	20.6	8.0	4.3	87.7	
将来の職業をアドバイスする	2011年	63.8	19.0	9.2	8.0	82.9	
	2009年	61.1	24.4	10.2	4.3	85.5	
子どもに合う学校にどんな学校があるかを調べる	2011年	42.0	36.7	13.1	8.1	78.8	
	2009年	36.5	46.3	12.0	5.2	82.8	
どんな学部、学科、コースがあるかを調べる	2011年	41.2	37.6	11.9	9.4	78.8	
	2009年	39.2	42.7	13.4	4.7	81.9	
興味をもった学校の入試方法を調べる	2011年	26.5	49.1	14.3	10.1	75.6	
	2009年	24.7	55.2	14.8	5.3	79.9	
就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする	2011年	62.1	12.3	16.4	9.2	74.4	
	2009年	69.6	11.8	14.2	4.4	81.4	
大学か短大か専門学校かを選ぶ際にアドバイスする	2011年	58.6	13.8	18.9	8.7	72.4	
	2009年	64.3	15.7	15.0	5.0	80.0	
具体的な受験校を子どもにアドバイスする	2011年	33.6	37.4	18.9	10.1	71.0	
	2009年	31.3	43.1	19.2	6.5	74.4	
興味をもった学校の資料請求をする	2011年	19.8	47.3	23.4	9.5	67.1	
	2009年	20.0	53.8	21.4	4.8	73.8	
興味をもった学校の見学に行く(オープンキャンパス・学校見学会を含む)	2011年	24.2	42.8	23.0	10.0	67.0	
	2009年	21.8	48.5	24.8	5.0	70.2	

具体的な情報をもとに親子が一緒に考える時代

父親は指導的に関与しようとする傾向

子どもの進路選択行動の関与を「行ったことがある」「今後行いたい」と回答した保護者に、関与する理由をすべて選んでもらった(図4)。トップは「子どもと一緒に考えたいから」、ついで「具体的な情報を知らない」と会話ができないから」が過半数に達し、突出。

以下、「子どもがやりたいことをみつけられていないから」「より良い選択肢があるのに子どもが気づいていないから」「子どもの考えが

甘いから」などは2割程度と少ない。過去調査と比較すると「子どもの考えが甘いから」のスコアが減少しており、子どもの進路選択に問題があり関与するといった理由は減少傾向にある。

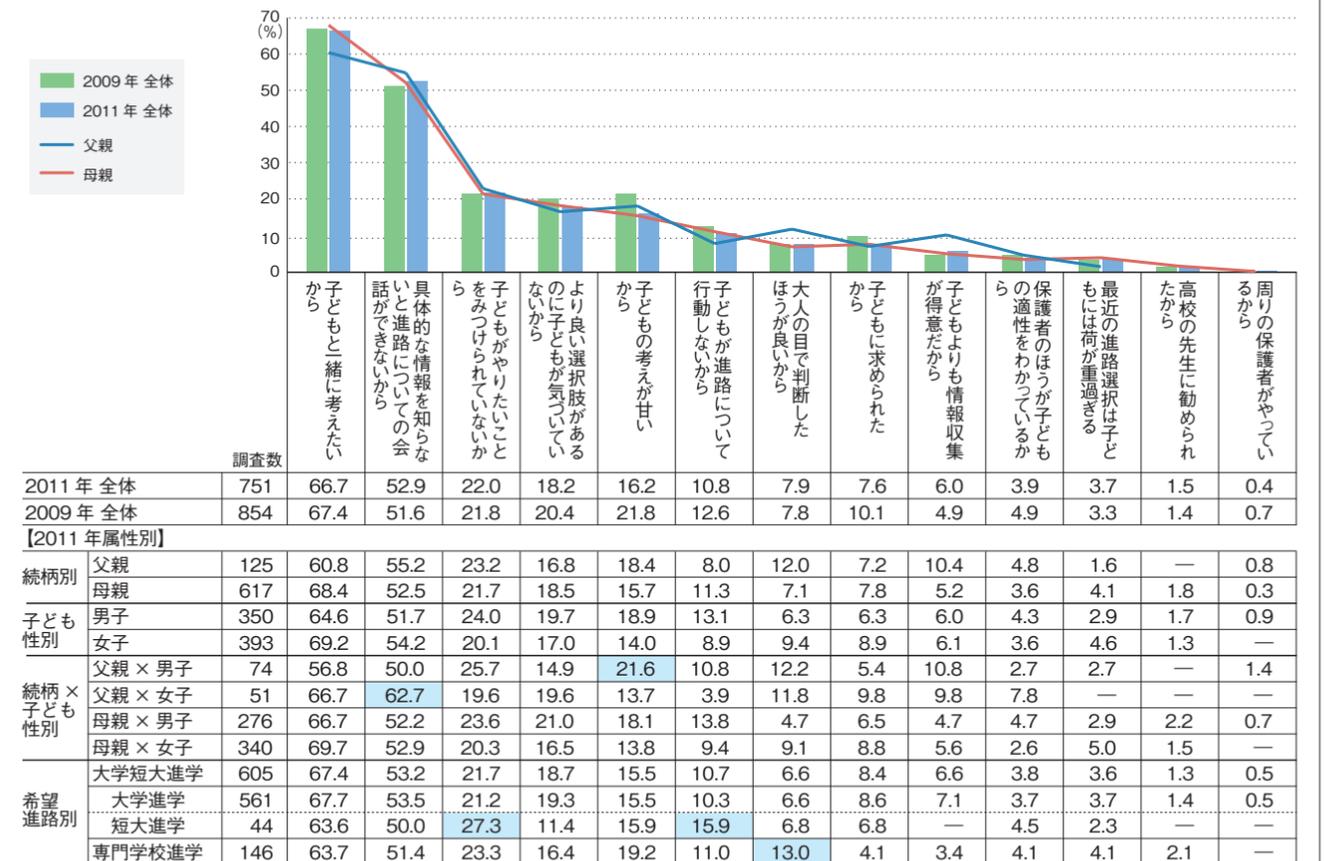
続柄別にみると、「子どもと一緒に考えたいから」は母親が68%と父親(61%)より多く、子どもと共に進路を検討したい意向が突出。父親は母親に比べ「大人の目で判断したほうが良いから」「子どもより

も情報収集が得意だから」のスコアが高く、保護者として指導的な関与をしようという意向がうかがえる。

子ども性別にみると、男子は女子に比べ「子どもがやりたいことをみつけられていないから」「子どもの考えが甘いから」「子どもが進路について行動しないから」がやや高く、子どもの進路選択が消極的と感じている保護者がいる。

希望進路別にみると、いずれの進路も上位2項目は過半数。

図4 【保護者】進路選択行動にかかわる理由(進学希望者:いずれか進路選択行動を行っている・今後行いたい/複数回答)



※[2011年全体] 降順ソート ※[2011年属性別] は、「2011年全体」より5ポイント以上高い数値に網掛け 100.0 [2011年全体]より5ポイント以上高い

進学に関する価値観に親子のギャップ

保護者は「国公立」「地元」を希望、子どもは「家計を心配」

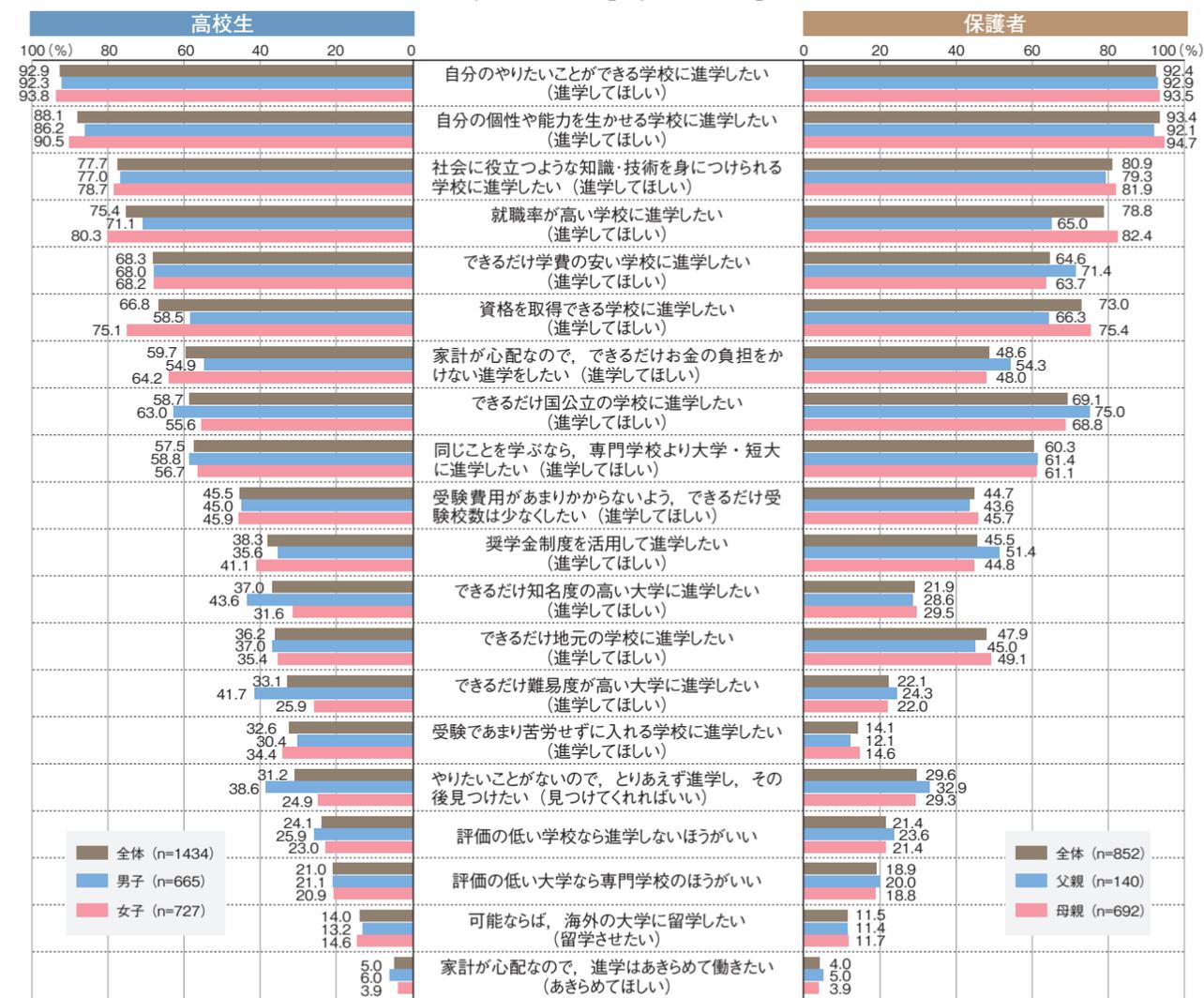
進学を希望する高校生と、子どもの進学を希望する保護者に、進学に関する価値観20項目についてそれぞれどう思うか尋ねた(図5)。上位4項目までは高校生と保護者は同じ結果で、1位は「自分のやりたいことができる学校」。

高校生より保護者が10ポイント以上高いスコアだったのは、「国公立の学校」「地元の学校」。逆に高校生の

ほうが保護者より10ポイント以上高かった項目は、「家計が心配なので、できるだけお金の負担をかけない進学をしたい(してほしい)」だった。子どもはダイレクトに家計を心配し、保護者はそのための具体的な進学先を希望している状況が見える。家計面以外では、高校生・保護者とも「社会で役立つような知識・技術を身につけられ

る」や「就職率が高い」「資格取得できる」など、卒業後の将来を見据えた項目が上位となっている。続柄別にみると、父親は「国公立の学校」「学費の安い学校」「お金の負担がかからない進学」などが母親に比べ高く、一方母親は「就職率が高い学校」「資格取得できる学校」「地元の学校」が父親より高い。

図5 進路についてどんな価値観をもっているか「とてもそう思う」+「まあそう思う」の割合(進学希望/各項目単一回答)



「子どもが学びたい」「子どもの興味」を重視

「就職に有利」「社会で役立つ力」も検討

子どもの進学先の学校を考える際に、重視するのはどのようなことか、すべて選んでもらった(図6)。

進学に関する価値観同様、1位は「子どもの学びたい学部・学科・コースがあること」(82%)。2位に「子どもの興味や可能性が上げられること」(69%)と続き、進学先が子どもの意欲や関心に合致し、さらに発展していくことができそうか検討しよ

うという意図がわかる。

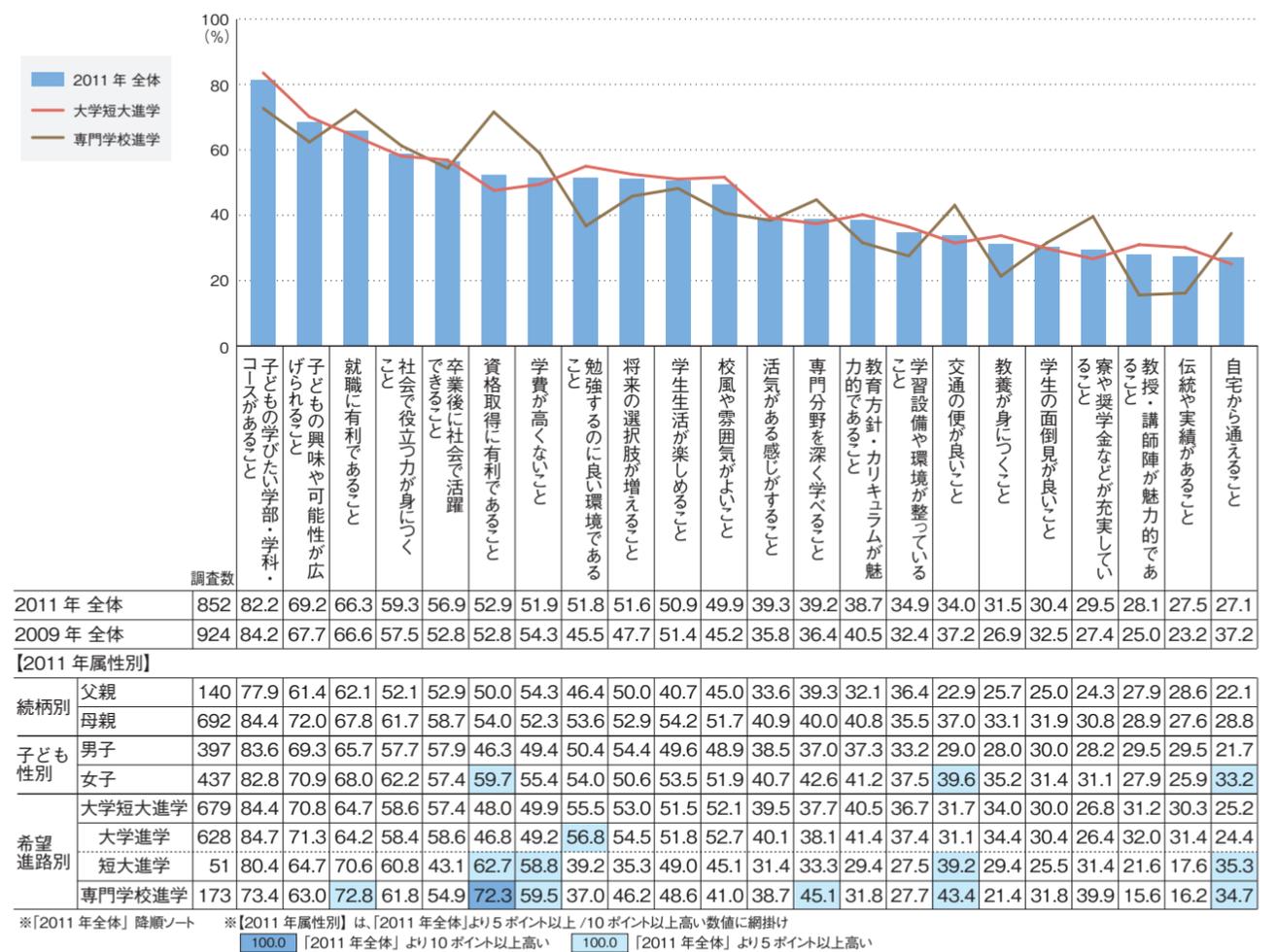
さらに「就職に有利であること」(66%)、「社会で役立つ力が身につくこと」(59%)、「卒業後に社会で活躍できること」(57%)、「資格取得に有利であること」(53%)と続き、過半数を超える保護者が、卒業後の進路へ高い関心を寄せていることがうかがえた。

希望進路別にみると、専門学校進

学希望者の親が、「就職に有利であること」「資格取得に有利であること」などで、大学短大進学希望者の親を大きく上回った。

子ども性別にみると、女子の親は「資格取得に有利であること」が6割と過半数に達する他、「交通の便が良いこと」「自宅から通えること」が3割台と、男子より資格取得や地元志向が強い。

図6 【保護者】進学先検討で重視すること(進学希望者/複数回答)



保護者にとっての最重要情報は「進学費用」「将来の職業との関連」

大学進学希望者の親で「将来の職業との関連」がトップに

子どもに進学を希望する保護者に、どのような進学情報が重要だと思うか5項目まで選んでもらった(図7)。保護者にとって進路検討で重要だと思う情報トップ5は、「進学費用」(53%)、「将来の職業との関連」(52%)、「入試制度」(43%)、「学部・学科の内容」(39%)、「就職の状況」(39%)となった。

保護者が子どもの進学にあたって重要と考える情報は、2009年時

トップであった「入試制度」が10ポイント下げ(53%→43%)3位となり、1位が「進学費用」(49%→52%)、2位が「将来の職業との関連」(47%→52%)に入れ替わっている。

「奨学金」や「資格取得の状況」についても、ほぼ4人に1人の保護者が重要という認識をもっている。

希望進路別に見ると、大学進学希望者の保護者は、「将来の職業と

の関連」をトップに「入試制度」「進学費用」「学部・学科の内容」、短大進学者は「進学費用」、専門学校進学希望者は、「進学費用」「資格取得」の情報を重視している。

続柄別にみると、父親よりも母親のスコアが高い項目が多く、母親は重視する情報が幅広いことがわかったが、「将来の職業との関連」では父親が母親を上回った。

重要と思う情報が得られていない実態

取得状況は、「進学費用」34%、「将来の職業との関連」15%にとどまる

それでは重要情報を保護者は得ているのだろうか。その情報を重要と思う保護者にそれぞれの取得状況をたずねてみた(図8)。36ページ図7で挙げた、保護者が重要と考えている情報上位15項目に対応して、取得している状況を示したのが図8である。

保護者が特に重要と考えている情報上位5項目の取得状況は、以下のとおり。

「進学費用」(34%)

「将来の職業との関連」(15%)

「現在の入試制度の仕組み」(40%)

「学部・学科の内容」(34%)

「就職の状況」(17%)

「将来の職業との関連」「就職の状況」といった「卒業後の進路」について情報を得ている保護者は2割にも満たないのだ。「進学費用」に関しても、3割強にとどまっている。一方、

「難易度」(45%)

「現在の入試制度の仕組み」(40%)

「入試の内容」(36%)

といった入試に関わる情報の取得状況は比較的高い。

「入試」情報は入手できるが、「卒業後の進路」「進学費用」情報は入手しづらい。保護者が重要と考える情報と、保護者が得ている情報には量的に大きなギャップがあることが見えてきた。

図7 【保護者】2011年 重要な進学情報 (進学希望者/5項目まで回答)

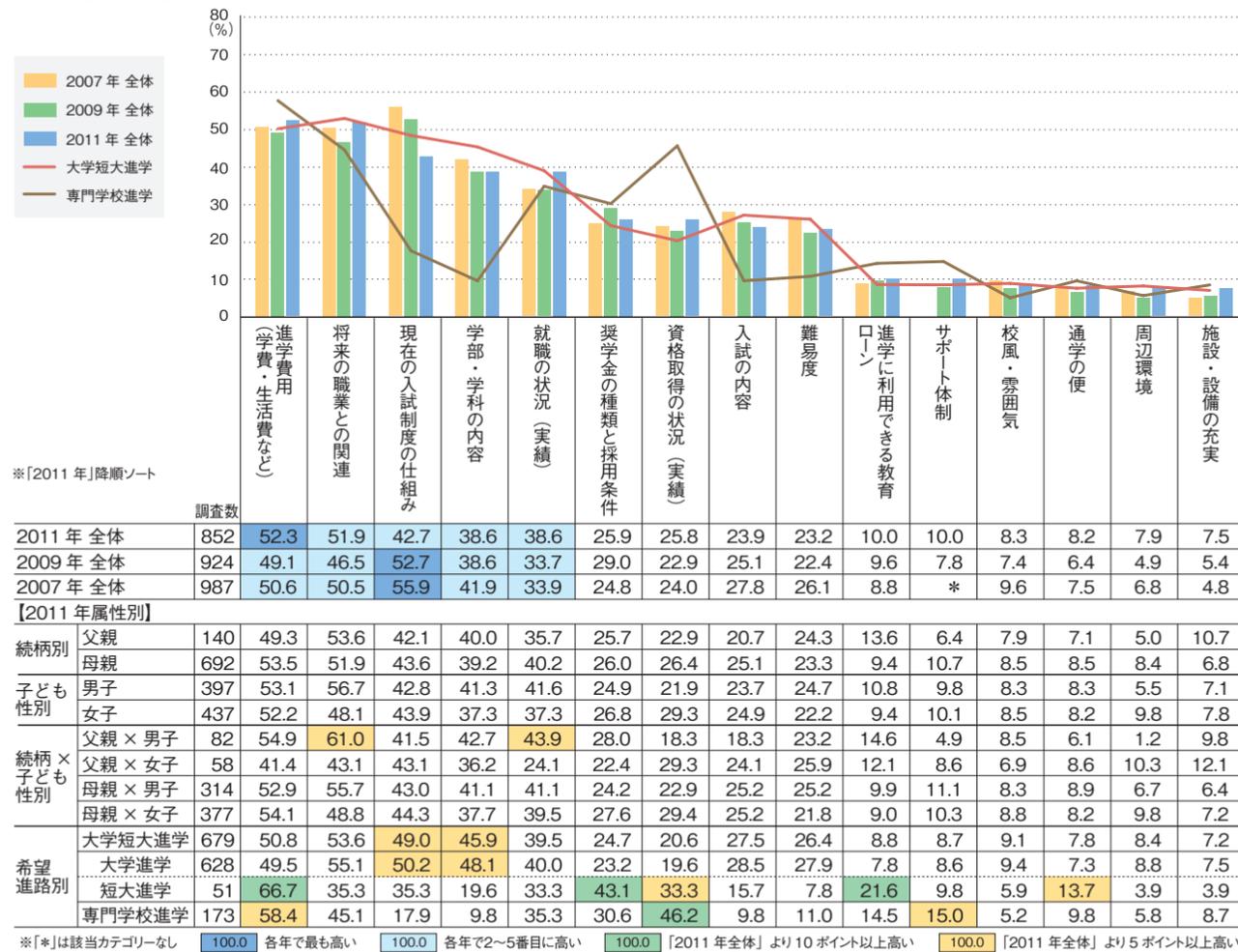
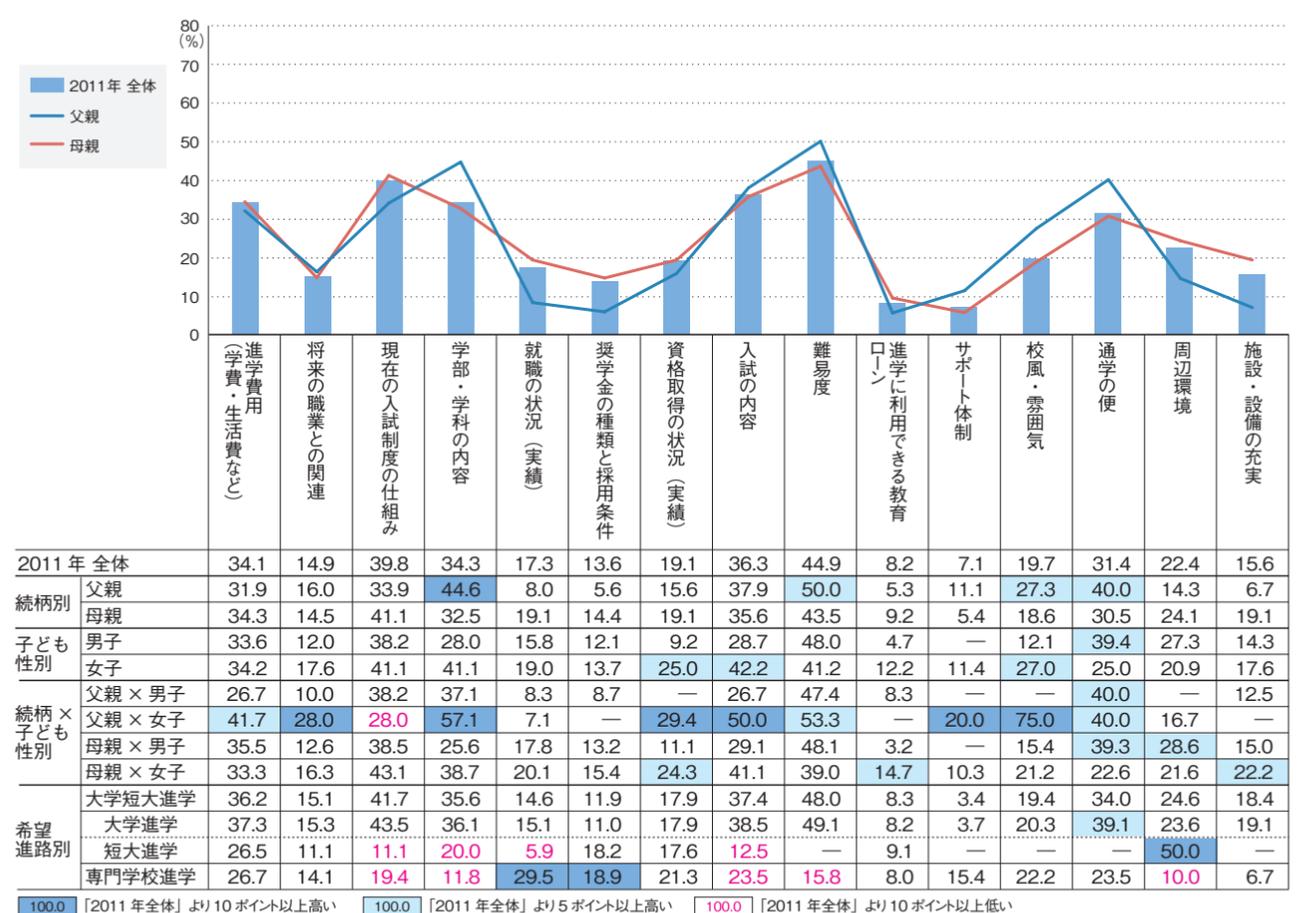


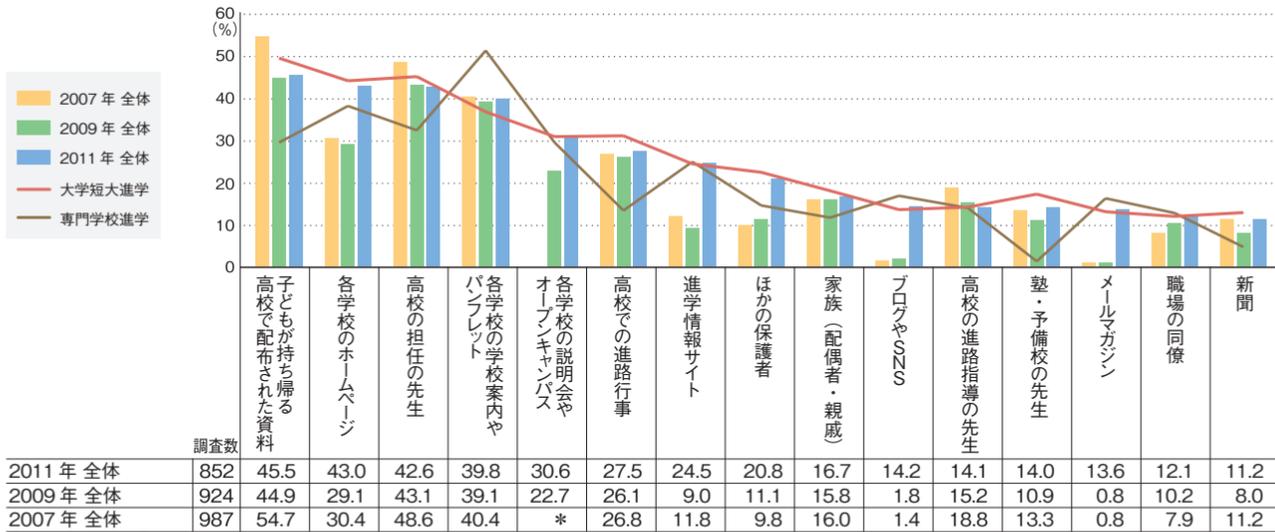
図8 【高校生】2011年 特に重要な進学情報の取得状況 (特に重要な進学情報/「取得している」計)



進学情報の入手方法はインターネット激増

ホームページ, 進学情報サイト, ブログやSNS, メールマガジン……

図9-1 【保護者】進学情報の入手先 (進学希望者/複数回答)



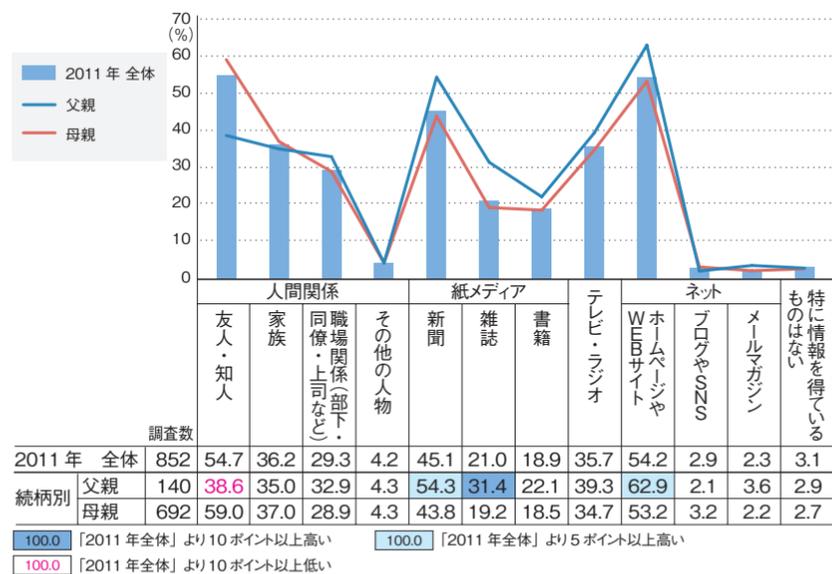
【2011年属性別】		調査数	父親	母親	男子	女子	大学短大進学	大学進学	短大進学	専門学校進学							
続柄別	父親	140	52.1	45.7	48.6	30.7	32.9	30.0	30.7	10.7	21.4	22.1	20.7	12.1	20.0	12.9	18.6
	母親	692	44.9	43.1	41.6	42.3	30.2	27.5	23.4	23.1	16.0	12.9	12.7	14.6	12.6	12.1	10.0
子ども性別	男子	397	44.3	40.3	45.6	34.3	24.2	28.2	22.2	24.2	18.9	11.6	13.6	14.1	10.8	13.6	9.3
	女子	437	47.4	46.2	40.5	45.8	36.2	27.7	27.0	18.1	15.1	16.9	14.4	14.0	16.5	10.8	13.0
希望進路別	大学短大進学	679	49.6	44.2	45.2	36.8	30.9	31.1	24.4	22.4	18.0	13.5	14.1	17.2	13.0	11.9	12.8
	大学進学	628	51.6	44.6	46.2	35.8	31.2	32.5	24.2	22.1	18.6	13.2	14.3	18.3	12.6	11.9	12.9
	短大進学	51	25.5	39.2	33.3	49.0	27.5	13.7	27.5	25.5	9.8	17.6	11.8	3.9	17.6	11.8	11.8
	専門学校進学	173	29.5	38.2	32.4	51.4	29.5	13.3	24.9	14.5	11.6	16.8	13.9	1.2	16.2	12.7	4.6

※「2011年全体」降順ソート ※「2011年属性別」は、「2011年全体」より5ポイント以上/10ポイント以上高い数値に網掛け ※は当該年度
 100.0 「2011年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2011年全体」より5ポイント以上高い

進学希望の保護者の情報入手先は例年どおり「子どもが持ち帰る高校で配布された資料」がトップ(46%)だったものの、「各学校のホームページ」(43%)が2009年から14ポイントも上昇し2位となった。そのほか、「進学情報サイト」「ブログやSNS」「メールマガジン」といったネット系情報源の利用が急上昇している。

普段の生活で利用する情報源を尋ねたところ、父親は「ホームページやWEBサイト」(63%)のほか、「新聞」(54%)、「雑誌」(31%)など、紙メディアの利用度も高く、母親は「友人・知人」(59%)がトップなのが特徴的だ。

図9-2 【保護者】2011年 普段の生活での情報源 (進学希望者/複数回答)



100.0 「2011年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2011年全体」より5ポイント以上高い
 100.0 「2011年全体」より10ポイント以上低い

校風を確かめるオープンキャンパス

女子の親は資格取得状況, 就職情報を確認

進学情報の入手先として「各学校の説明会やオープンキャンパス」を挙げた保護者に、そこで得たかった情報を尋ねた(図10)。トップは「校風・雰囲気」(59%), ついで「学部・学科の内容」(52%)も5割以上に達する。

以下、「将来の職業との関連」(35%), 「施設・設備の充実」(33%), 「資格取得の状況」(29%)。

父親は「学部・学科の内容」のみが半数以上に達し、突出(52%)。女

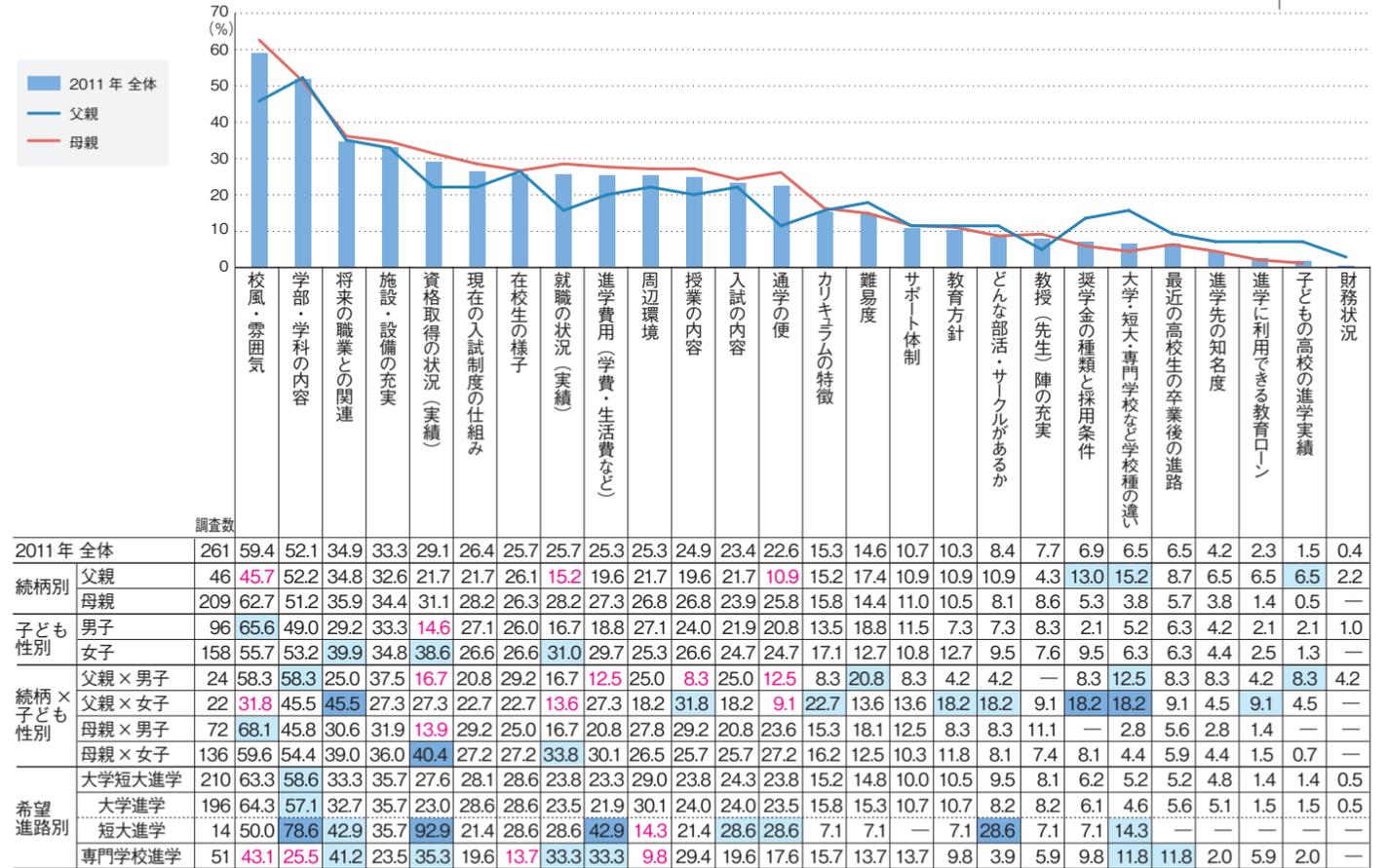
子の親は男子の親に比べ、「資格取得の状況」を得たかったとしている(39%)。

現代の高校生の進路選択の最大のステイクホルダー「保護者」。彼らは、「情報」をもとに子どもと一緒に進路を考えようとしている。自身の情報感度も高くネットの活用も激増している。経済環境を反映して「進学費用」や「卒業後の進路」への関心が増しているのに、それら

の情報はあまり得られていない。こんな実態が浮き彫りとなった。

ネットも紙もともにメディア利用度が高い父親。口コミを重要な情報源とする母親。紙メディアとネット、そして学校見学会といったリアルな場それぞれで、保護者に何を伝えていくか。高等教育機関の広報は今後いっそう続柄別・メディア別の戦略を立てていく必要があるだろう。

図10 【保護者】2011年 各学校の説明会・オープンキャンパスで得たかった情報 (進学希望者: 各学校の説明会・オープンキャンパスで情報入手/複数回答)



※「2011年」降順ソート 100.0 「2011年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2011年全体」より5ポイント以上高い 100.0 「2011年全体」より10ポイント以上低い